

平成29年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 早鞆 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 数学)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.5	77	6.3	70	22.2	62	6.8	45
全国	24.8	77	6.5	72	23.3	65	7.2	48

(2) 本校の学力調査結果の分析

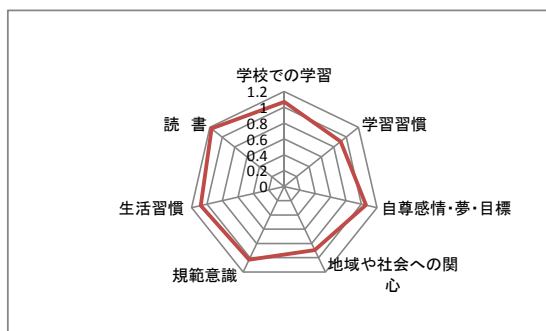
国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的にはやや全国平均を下回っていたが、書くことに関する問題の正答率が高かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	言い直した意図として適切なものを選択する問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	話し合いの記録として適切な言葉を考える問題の正答率が低かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全体的にやや全国平均を下回っていた。短文式の問題の正答率は高かったが、言語に関する知識・理解・技能に関する問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解する問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	表現の仕方について捉え、自分の考えを書く問題の正答率が低かった。	

数学A	全体的な傾向や特徴など	・どの領域においても全国平均を上回っていたが、図形や関数の領域では課題がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	分数のかけ算や四則混合の計算など基本的な計算は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	おうぎ形の弧の長さを求める問題の正答率が極端に低かった。	

数学B	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均を下回っていた。しかし、無回答率を比較すると全体的に低く、記述式の問題でも解答しようという意識がみられた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	与えられた資料から必要な情報を読み取る問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	事象と式の対応を自分の言葉で説明する問題の正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・学習習慣の中でも家庭学習を1日当たり60分以上行くと回答した生徒の割合が少なかった。 ・テレビゲームを1日に60分未満と回答した生徒の割合が増加した。 ・将来の夢や目標を持っている生徒の割合が増加し、全国を上回った。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 授業では、「めあて」「まとめ」を提示し、「話し合う活動」など生徒が主体的に活動する場面を積極的に取り入れていく。
- プリントや板書などで学習内容を整理し、まとめていくことで生徒へ学習内容の定着を行っていく。
- アシストシート・活用力を高めるワーク等を活用していく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 早朝ノートを作成し、家庭学習を行う生徒が増加してきているので、今後も継続して取り組んでいきたい。
- 学校便りや学級通信・学校ホームページ等で、全国学力・学習状況調査の結果の分析等を保護者へ周知・徹底し、家庭との協力体制をつくり、家庭学習に取り組んでいく。